

『小中両方』

大リーグでの大谷翔平選手の活躍の様子が、毎日のように報道されています。まさか、大リーグ１年目から、あのような素晴らしい結果を出し続けるとは、私は微塵も想像していませんでした。打者としても、投手としても、世界最高レベルの選手達の中にあって、そのプレーは、すでに一流であると各方面から高く評価されています。

その活躍の要因として、ポテンシャルや適応能力の高さ、プレー前の周至な準備などが挙げられています。過日の大谷選手の会見で、「日本にいる時よりも、プレーについて考える時間がより長くなった」とコメントしていました。対戦する相手をイメージし、打者に対してはどんな配球が最適なのか、投手に対してはどのコースや球種を狙えばいいのか、おそらく寝ている時以外は、ずーっとそのことを考えているのではないかと想像しています。大リーグにおいても、大谷選手の二刀流（英語：two-way player～先日たまたまテレビの教養番組で知ったので・・・）が、夢物語などではないことを、これまで彼が出してきた結果が証明しています。どうか、けがをせず、これからも伸び伸びと挑戦し、活躍されることを願っています。

さて、話は変わりますが、二刀流とはニュアンスが違いますが、大谷選手の活躍に便乗して、今月のコラムのタイトルは『小中両方』としました。『小中両方』とは、小学校、中学校、両方での勤務経験がある教員のことを指しています（私の造語です）。

結論から申し上げますと、一方の学校種の勤務経験で教職生活を終えるのではなく、一度でいいので（できれば早い段階で）、もう一方の学校種の勤務を経験しておくことが、当人にとっても、勤務する学校にとっても（ひいては子ども達にとって）、とても有益なことだと思っています。

理由１：義務教育９年間の教科（その教員の専門教科ですが）の系統性が把握でき、学習指導上とても有益です。先を具体的に見通すことができ、今、学習していることが中学校段階で、どのような内容に結びつくのか、あるいはどんな内容の土台となるかがわかったり、前を振り返って小学校段階での既習の内容や経験がわかっているので、それらを踏まえた段差の小さい適切な連続性のある授業を展開することができたりするなど、児童・生徒にとって興味・関心の高まりや課題解決への意欲の向上が期待できます。小中９年間を通じた年間指導計画

作成の際も極めて有効で、力を発揮します。

理由2：中学校では、進路指導が具体的かつ現実的になされます。中学卒業後の進路をイメージさせることは、小学校段階でも大事なことです。今、学習していることが、自分の将来に直結していることを、子ども達に納得させることができ、希望や目標を持たせることや学習意欲の高揚につながります。

理由3：温かさと厳しさのある生徒指導ができるようになります。「生徒指導」は、「何か問題が起きた時の対応のこと」という偏った認識は昔話だとは思っています。今は、小学校でも、「生徒指導」の機能“①自己決定の場を与える。②自己存在感を持たせる。③共感的な人間関係を育む”を理解し、子どものより良い成長を促す実践がすすめられていると思っています。しかしながら、いざ問題が発生した時に、迅速な報告や情報共有に基づく組織的な対応ができているかと言えば、そうではない所（学校全体で情報が共有されず、一部での対応に終わり、他の職員は何が起きているのかさえ知らず、結果不適切な対応となってしまう）もまだあるのではと推測しています。中学校での、生徒指導部長のリーダーシップの下での迅速かつ組織的な対応の経験は、小学校においても絶対役に立ちます。

平成18年に改正された教育基本法において「義務教育の目標規定」が新設され、その後の中央教育審議会や教育再生実行会議等において、学校段階間の連携・接続、一貫教育の重要性が示されてきました。そして、平成28年には、小中一貫教育の制度化に係る法整備がなされました。新学習指導要領においても、学校段階間の円滑な接続とその工夫を求めています。

小中連携教育や小中一貫教育に取り組んだ学校からは、当初、必ずと言っていいほど「小学校と中学校の文化の違いが壁となっている」との声が出て、この取組がなかなか進まないという耳にします。文化に違いがあるのは当然です。それを乗り越えて、9年間かけてより有効で質の高い教育が可能となるのが、「小中連携教育」や「小中一貫教育」だと捉えています。相手を理解しようと、まずはお互いが、自分の心を開くことが大事です。この点からも、『小中両方』の教員が勤務していると、かなりスムーズに進むのではないかと思っています。

ただ、人事にかかわることなので、その有効性が理解されたとしても、「わかりました」と承諾される教員は、かなり少ないだろうと想像しています。でも、あえて言いたい。「小学校、中学校両方を経験することは、大変なことだとは思いますが、視野が広まり、多様な視点を持った見方や考え方のできる教員が育成されますよ」と。